

# 将来像を描く「下水道ビジョン策定業務」の提案

－ 効率的・効果的な事業運営のためのロードマップの検討 －

## はじめに

下水道を取り巻く環境が大きく変化する中で、今後も下水道サービスを継続的かつ安定的に提供するためには、効率的・効果的な事業運営が求められます。さらに、人口・水量の減少等に伴い遊休資産等が増大する場合には、ダウンサイジングやスペックダウン、施設の統廃合、運用方法の見直し等、様々な工夫を取り入れていく必要があります。

しかし、下水道事業は事業者ごとに執行体制や事業進捗状況、経営状況等が異なるため、画一的な運営計画では各都市の状況に適した事業を推進することができません。そこで水コン協では、各都市の下水道事業の将来像や施策優先順位（ロードマップ）を明確にする「下水道ビジョン策定業務」をご提案します。

## 1. 下水道ビジョン策定の背景と目的

継続的・安定的な下水道事業を推進していくためには、下水道が果たすべき多様な役割や機能、現在の事業状況と今後の事業計画等について、利用者と下水道管理者が情報を共有しつつ、相互に理解を深めて地域全体の価値観を高めていくことが重要です。そのため、各都市の状況に応じた事業のロードマップを「見える化」し、より計画的な事業運営を実施していくことが望まれます。

「下水道ビジョン」の策定は、多くの施策を抱える都市が中長期の方針を決定し、下水道事業のロードマップを明確にするために有効な手法です。また、策定された下水道ビジョンは「事業計画」や「ストックマネジメント実施方針」、「経営戦略」策定時にも有効に活用することができます。

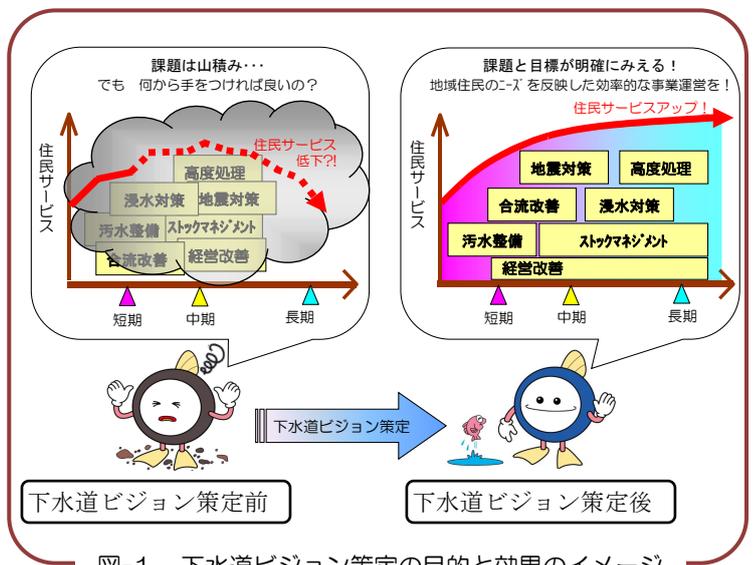


図-1. 下水道ビジョン策定の目的と効果のイメージ

## 2. 下水道ビジョンで定める主な事項

### (1) 計画期間

**長期【概ね20～30年】** 長期的な施策方針・目標を設定し、下水道事業の将来像を示す

**中期【概ね10年】** 長期ビジョンを実現するための具体施策や経営方針を示す

### (2) 下水道ビジョンに定める主な事項

- ①基本方針：地域の将来像の実現に向けた下水道の考え方など
- ②下水道事業の現状・課題の把握と将来事業環境の予測  
下水道事業の現状・課題の把握、将来の事業環境を認識するための内部・外部環境の予測など
- ③下水道事業の理想像と目標設定  
地域の将来像実現に向けた下水道事業のあり方・基本方針、各種施策の目標水準の設定など
- ④具体的施策と優先度  
具体的施策内容と重点化・効率化の考え方、各施策の総合化の考え方（他事業との連携、住民との協働、ソフト対策等）、都市の下水道事業のロードマップなど
- ⑤管理と経営に関する事項  
長期的収支見通し、収入確保・支出削減の考え方（経営改善方針の検討）、事業実施体制、定期的な進捗管理（フォローアップ）など

### 3. 下水道ビジョンの位置づけと検討フロー

下水道ビジョンの策定にあたっては、都市全体の事業進捗状況を踏まえ、各種の関連計画との調整を図りながら進める必要があります。具体的には、これまでの下水道整備・管理・経営に関する各種施策に基づき、下水道事業運営の最も基本となる中長期（概ね10～30年）の段階的目標や施設整備計画を定めるとともに、住民へのPR資料を作成します。なお、下水道ビジョン立案後は、健全な事業運営に向けた各種施策の進捗管理と、定期的な下水道ビジョンの見直しが重要です。

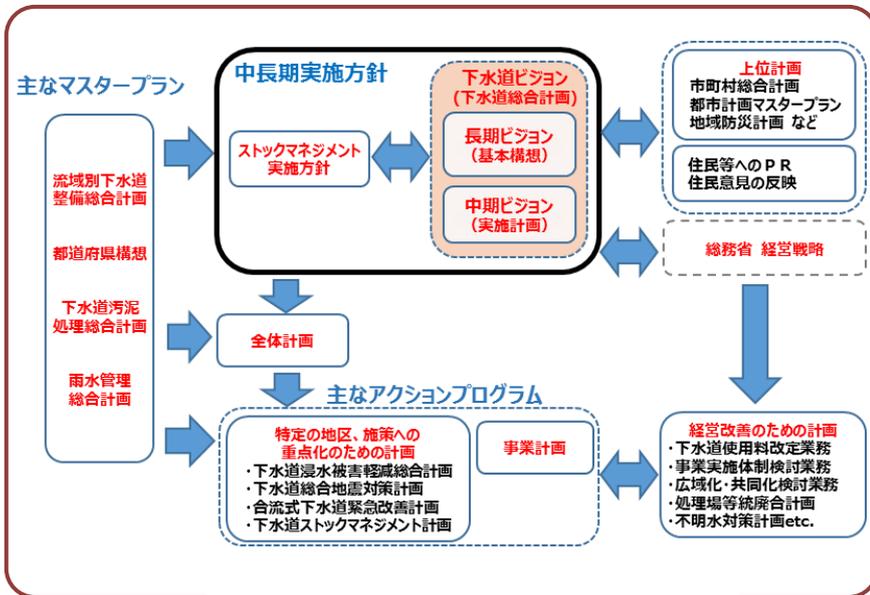


図-2. 下水道計画の関係性のイメージ

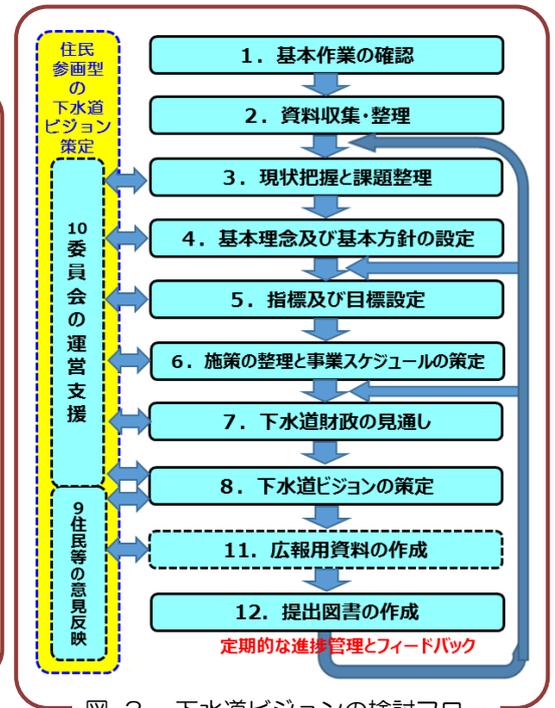


図-3. 下水道ビジョンの検討フロー

### 4. 下水道ビジョン策定後の展開

#### (1) 下水道法事業計画への反映

下水道ビジョンでは、汚水処理や浸水対策等の主要な施策ごとの整備水準を、短期、中期、長期に分けて設定し、事業の重点化・効率化の方針について検討します。このため、下水道ビジョンの検討内容は、新たな事業計画（様式-1）や財政計画書（様式-3）に反映させることができます。

#### (2) スtockマネジメント実施方針への反映

策定された下水道事業のロードマップや下水道の管理・経営に関する検討結果は、ストックマネジメント実施方針に反映することで、ストックマネジメントのレベルアップに利用できます。

#### (3) 経営戦略への反映

下水道ビジョンは、都市の将来像や各種施策の優先順位を明らかにしたうえで、下水道事業全体のロードマップを策定します。そのため、経営戦略の策定において、下水道ビジョンで整理された投資計画をインプットすることで、今後必要となる事業内容を反映した精度の高い経営戦略を策定することができます。

#### (4) 各種計画の進捗管理と情報発信

ビジョン策定後は、概ね3～5年ごとに事業の進捗状況を評価します。また、評価結果は市民に公表するとともに、新ビジョンへとフィードバックします。下水道ビジョンは、これらPDCAサイクルに基づき定期的に見直すことで最新性を保ち、効率的・効果的な事業運営のための基礎となります。

「下水道ビジョン策定業務」に関する仕様書や説明資料については、水コン協HPで公開しています。



Association of Water and Sewage Works Consultants Japan

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会（通称：水コン協 AWSCJ）

〒116-0013東京都荒川区西日暮里五丁目2番8号 スズヨシビル7階

TEL : 03 (6806) 5751 FAX : 03 (6806) 5753 <http://www.suikon.or.jp>